

地域にまつわる豆知識

「へえ」と声を出してしまいそうな身近な雑学

思わず他人に教えたくなる豆知識をご紹介します

こんなところに
みらいくんが!



町内のマンホールには町のマスコットキャラクター「みらいくん」が描かれているものがあります。とても貴重なこのマンホール。是非みつけてみてください。



藤久保の「藤」はなぜ「富士」じゃない?

大きな藤の木が窪地にあった!?

その昔、大きな藤の木が地区内の窪地にあり、窪地(久保)に藤があるから「藤久保」となったと言われ、丸池と呼ぶ池の辺りには、五月になると藤の花が咲き染めたことです。富士山の「富士」ではなかったんですね。



現在民間のプール施設がある場所周辺に「藤の木」があったそうです

さて、皆さんはほかの地区の由来、いつ誕生したかご存じですか?



地名の由来ではありませんが、藤久保からは雄大な富士山を見ることができます。

・上富:江戸時代、柳沢吉保侯が論議から引用し、上富と命名。
・北永井:昔、「長井村」という村があり、その後、北と南に分かれ、「北永井」「南永井(現所沢)」となった。

・竹間沢:竹林の間に水が湧きだして沢になっている所を中心に村ができたことから、竹間沢という名前に。
・みよし台:昭和55年11月15日に藤久保・竹間沢地区の一部から誕生。
・竹間沢東:平成9年6月14日に竹間沢の一部から誕生。
このように地区名には、さまざまな歴史があるのでありますね。



「みよし」はなぜみよし?

伊勢物語から引用して「みよし」に!?

明治21年、いまから124年前に、上富村・北永井村・藤久保村・竹間沢村が合併するにあたり、伊勢物語の中の「人間郡みよし野の里」から、「三芳野村」という名称を引用し、申請しました。

坂戸市内)「2番目を「芳野村(現川越市内)」、3番目を「三芳村(現三芳町)」とする。ことで解決しました。その後、昭和45年に村から町になり、現在の「三芳町」となりました。三芳野村を申請する前には、「富永村」「藤井村」「柳瀬村」「富久井村」などの候補があったそうです。ひよっとしたら、富永町や藤井町などと今、呼ばれていたかもしれないですね。



一ちょっと昔のみよしフォト
①約100年前の旧役場
②北永井にあった養豚場
③昭和40年代の柳瀬川。奥に建設中の志木ニュータウンが見える
④三芳村当時の川越街道。



東上線はなぜ「東上」?

東に上ってないのに「東上線」!?

東上線の東は「東京」のことです。当初の計画では「東京上州」を結び予定でした。ではなぜ、上州まで開通させる予定だったのでしょうか? 計画当時、絹の流通が盛んに行われていて、「富岡製糸場」などで作られた絹や糸を東京



に運ぶ手段として、「東京上州」までのルートを計画していたからです。寄居が終点であるのは、昭和4年に起きた世界恐慌の影響や化学繊維の発展により絹が暴落し、上州まで開通する必要がなくなったため、開通していた寄居までが終点となりました。そのため名前だけが「東上線」として残り、「夢のシルクロード」は立ち消えとなりました。



①みずほ台～鶴瀬を走る東上線 ②開発が進み鶴瀬駅までアクセスが便利に ③昭和52年に開業したみずほ台駅 ④昭和54年に西口が開設された鶴瀬駅



みよしに「鎌倉街道」?

鎌倉幕府とつながっていた!?

藤久保小学校の前や唐沢倉街道(鎌倉通り)と地元では古くから呼ばれています。ではなぜ鎌倉街道が三芳町にあるのでしょうか。江戸時代以前に鎌倉幕府と地方を結んでいた道を「鎌倉街道」と呼んでいます。その街道にはいくつ種類があり、幕府と地方を結ぶ主要道、それらの道をつなぐための間道、主要道や間道から武士の在在を結ぶ道など、さまざまなものがありました。



藤久保小学校の前に設置されている街道の案内板。皆さんご存知でしたか?



一今も残るみよしの鎌倉街道一(写真上)「鎌倉街道」唐沢小学校付近。(写真左)竹間沢こぶしの里付近の鎌倉街道と案内板。

鎌倉街道を南に進むと竹間沢の工業地帯に突き当たりますが、その先で、主要道の1つである奥州往路の脇街道につながります。この竹間沢の鎌倉街道(こぶしの里付近)は柳瀬川に沿って西には府中、多摩川を越えて鎌倉方面に、東は与野、さらには奥州方面に通じていました。藤久保、竹間沢と訪ねて、さらに足をのばせば、途中途切れながらも鎌倉に辿り着くことができます。鎌倉街道を辿ってみてはいかがでしょうか。

もっと教えて

にほんの里100選で三富新田が選出されたことを

ご存じですか?

平成21年に朝日新聞社と森林文化協会の主催による「人々の暮らしによって育まれてきた、すこやかで美しい里を100カ所選ぶにほんの里100選」において、三富新田(三芳町・所沢市)が選ばれました。

県内では「三富新田」と「風布(寄居)」のわずか2箇所だけが選出され、三富新田が全国からみても、貴重な存在であると評価されました。



江戸期の地割を今に残す「三富新田」。

「広報みよし」がいつ創刊されたかご存じですか?

昭和34年4月25日に創刊されました。今から53年前にさかのぼります。当時はまだ「三芳村」。創刊号には「捨った話題!!」というコラムがあり、

「三芳を訪れたAさんが道に迷っていた。村の学生に道を尋ねると、乗っていた自転車を降り、「乗っていきませんか?」とその自転車をAさんに笑顔で提供。外部から来た人に好印象を与えた」という内容。

「近頃の若い者は!」と頭から批判をしがちな方に一寸お耳に入れておきたい話です。『でコラムは締めくくられています。今も昔も変わらないものですね。』



▲広報みよし創刊号。53年の時を経て、今月は900号を迎えました。